

保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業 アンケート結果

【保育者・利用後アンケート結果】 回答者：1人

1 性別

選択肢	回答数 (人)
女	1
男	0

2 年齢

選択肢	回答数 (人)
20歳未満	0
20～24歳	0
25歳～29歳	0
30歳～34歳	0
35歳～39歳	0
40歳～44歳	0
45歳～49歳	0
50歳～54歳	0
55歳～59歳	0
60歳以上	1

3 普段受け持っているクラス

選択肢	回答数 (人)
受け持ちのクラスがある	0
受け持ちのクラスがない	0
一時預かり事業を専属で担当	0
預かりモデル事業を専属で担当	1
その他	0

4 保育者としての経験年数

選択肢	回答数 (人)
1～5年	0
6～10年	0
11～15年	0
16年以上	1

5 保育士資格の有無

選択肢	回答数 (人)
あり	1
なし	0

6 保護者への継続利用の働きかけ

選択肢	回答数 (人)
送迎の際に、積極的に話しかけるようにした	1
預かり保育中のこどもの様子を伝えるようにした	1
利用が途切れたときには、電話等で連絡をとるようにした	1
保護者との面談を行った	1
支援計画を作成した	1
関係機関との情報共有・連携を行った	1
とくに行っていない	0
その他	0

7 預かりモデル事業に対するやりがい

選択肢	回答数 (人)
ふだん保育を利用している家庭以外にも、地域の子育てに関わる事ができる	1
預かりモデル事業を利用することもたちの成長・発達を感じることができる	1
地域の様々な家庭・子どもと関わることで、自分自身の成長を感じることができる	1
とくにやりがいは感じない	0
その他	0

8 預かりモデル事業による仕事の負担

選択肢	回答数 (人)
事務仕事が増えた	0
普通の保育に加え、預かりモデルの事業のこどもの対応にかかる時間・労力が増えた	0
保護者対応にかかる時間・労力が増えた	0
会議が増えた	0
関係機関と連携をとることが多くなった	0
保育活動・保育計画に変更が生じた	0
休憩時間が減った	0
休みが取りづらくなった	0
仕事の負担はあまり変わらない	1
その他	0

9 利用するこどもの育ちについての意義

選択肢	回答数 (人)
専門的な視点でこどもの育ちの状況や課題を確認できる	1
保育者との愛着異形成を通じて心の発達が促進される	1
家族のみで育つことと比べ、様々な遊びを経験できる	1
同年齢・異年齢の子ども同士で関わり合う機会を得ることができる	1
保護者と関わることで、保護者の養育力の向上に寄与することができる	1
本格的な入園に向けた準備の機会となる	1
とくに意義は感じない	0
その他	0

10 預かりモデル事業の課題

選択肢	回答数 (人)
通常保育に比べて、こどもが環境に慣れることが難しい	1
通常保育に比べて、保育者が日々のこどもの様子や特徴を、把握することが難しい	0
本体業務を利用している子どもと預かりモデル事業の子どもとの関わりが難しい	0
本体業務を利用している子どもと預かりモデル事業のこどもの経験の違いにより、同一の関わり方をすることが難しい	1
日々の業務の負担が増え、全体として子どもと向き合う時間が減っている	0
要支援家庭の対応が難しい	1
預かりモデル事業の特性を踏まえた、実施にあたっての留意事項のある方がよいと感じる場合がある	1
とくに課題は感じない	0
その他	0

11 「一時預かり保育」と比べた際の保育者にとってのメリット

選択肢	回答数（人）
複数回登園することが想定されるので、保育や業務の見通しを立てやすい	1
こどもの個別の成長・発達の見通しを持って保育ができる	1
こどもや保護者の変化に気づき、適切な支援をしやすい	1
こども同士の関係がつくりやすい	1
こどもが保育施設の環境に慣れやすい	1
予約管理などの負担が軽減される	1
とくにない	0
その他	0

12 「一時預かり保育」と比べた際の保育者にとってのデメリット

選択肢	回答数（人）
保護者連絡・欠席連絡など事務仕事の手間が増える	0
要支援家庭など問題を抱える家庭のフォローが大変である	0
とくにない	1
その他	0